

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572108926
法人名	社会福祉法人 交楽会
事業所名	グループホーム もりの家
所在地	秋田県北秋田市米内沢字柳原14番地4号 (電 話) 0186-72-9220
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年7月31日

【情報】【情報提供票より】（平成21年7月16日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 ( 7月 16日現在 )

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	名	要介護 2	2 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立米内沢総合病院 米内沢歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは木のぬくもりが感じられ、採光の取り入れも良く明るい。敷地の側に公園・あずまやが整備されている。自治集会所が隣接しているという立地条件を活かし、地域住民・自治会との協力体制もよく取られている。管理者・職員は「家庭的な雰囲気の中でその人らしさを尊重し共に生活する」という理念に基づき、開かれたグループホームとして役割を果たせるよう取り組んでいる。また、協力医療機関との連携や法人内の看護職との連携などが出来ており、緊急時等の医療体制が整えられている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受け、毎日のケアについてフィードバックし、利用者にとってより良いケアを提供できるよう、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義・目的を十分に理解しているが、管理者と職員間での評価に対する意見が異なる部分もあるため、十分話し合い、日々のケアの向上につなげていく予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に行っており、積極的に取り組んでいる。行事や外部評価の報告等を行っており、参加者の意見にも耳を傾けているが、今後は運営に繋がるような内容となる取り組みも期待したい。市町村との連携は運営推進会議のみとなっている。より良い連携について検討していくことが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所での利用者の様子などを、面会時や月1回の家族通信で定期的に報告している。家族会開催時や法人のオンブズマンによる相談窓口を設け、家族の意見・要望を受け入れる体制が構築されている。今後はさらに、家族からの意見を十分に分析し、運営に繋げていくことを期待する。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームのそばに自治会集会所・公園・あずまやなどがあり、近隣の方々との交流も良好である。地域の行事へ参加したり、小学生～高校生の訪問等があったり、積極的に地域社会でとの連携に取り組んでいる。今後は運営推進会議で要望のあった『認知症に関する勉強会』の開催、地域に対する啓蒙活動などの積極的な働きかけを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしさを尊重し共に生活する」理念のもと、開かれたグループホームとして、地域で生活をしていくことに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の健康維持・充実した生活・ニーズに沿ったケアプラン・地域との関わりを考え、運営者・管理者・職員とで連携・話し合いを重ねながら、共通した方向性でケアができるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの夏祭りが地域との交流の場となっている。自治会へ出席したり、子供たちと交流したり、グループホームの周辺環境をを最大限に活かしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では管理者と職員の間で、温度差があるが、外部評価を参考にし話し合いを持つことにより、より良いケアを提供することができるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に開催され、家族や参加者と意見交換、話し合いをして今後のサービス等に繋げる取り組みをしている。		報告・情報交換にとどまらず、テーマや会議内容を明確にし更に充実した会議となることや会議の議事録の工夫に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では、行政担当者もメンバーに入り、行事や外部評価の報告等を行っている。行政との連携が運営推進会議の場だけとなっている。	○	地域の相談窓口として、市町村が運営する地域包括支援センターを活用し、サービスの質の向上を図る機会を作っていくことに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族通信を利用し、家族に対し利用者の生活状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・家族会開催時に意見・要望を聞いている。また、法人として、ご家族等が直接話しにくい苦情・相談等について対応する機関があり、幅広く対応できている。		ホームとして、家族の意見が要望なのか苦情なのかを分析し、よりよいサービスの向上に組むことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は1~2か月前には利用者に報告しているが、利用者の一時的な精神不安が生じる場合もある。	○	職員を通じ利用者の精神・身体状況を把握し、利用者のダメージを最小限に抑え、フォローできる配慮が望ましい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験やレベルに応じ研修に参加している。月1回の内部研修も定期的実施され、新人職員については慣れた職員が個別に指導する方法が導入されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入しているが、会議への参加には至っていない。法人内でのグループホームとの交流はある。	○	法人内にとどまらず、他のグループホームとの交流・情報交換を積極的に取り組まれることを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が訪問し、利用者の生活史などについて情報収集したり、グループホームを見学して頂く等実施し、利用者・家族が安心してサービス導入ができる取り組みをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や片付け仕事・畑作業を通じ、「共に過ごし学び支えあう」関係の構築が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の業務より、利用者の状況を優先させることが大事であると考えて、業務の優先順位を考慮し対応している。	○	より多く会話をもてるような雰囲気作りを行い、積極的にニーズの把握が出来る機会を得ることに期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活史を把握し、本人が役割を持つて意欲的に生活できるようなケアプランが個別に作成されている。また、面会時などに家族の要望を聞いて、介護計画作成時に取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回ケアプランの見直しが出来ている。状態に変化があった場合は、ケアプランの見直しをするなどの対応がされている。また、前回の外部評価で指摘されたケアプラン様式について検討し、改善が見られた。		記録内容の充実を検討し、利用者の現状を明確にしていくことを期待する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小学生～高校生の訪問があり、地域行事の拠点となっている。法人内での連携も図られている。在宅でのケアマネジャーとも連携をとり、切れ目のないケアが実施されている。		さらなる向上を目指す観点で、利用者の状況に応じた、個別性のあるケアの充実に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれの主治医に相談している。身体・精神状況の変化については、法人内の看護師にも相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症の進行及び高齢に伴う身体状況の悪化については、家族と相談し、次のステップに進める準備を一緒に行っている。		家族と将来的な方針の共有についてのタイミングに留意し、どこまで対応できるのかを、早期の段階から検討をする体制作りをする取り組みに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者それぞれに適した言葉かけを行っており、寄り添えるようなケアを実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースに合わせてながら、利用者と共に日常生活を送っている。		利用者のペースに合わせる事を優先し、業務にあたっている。ペースに合わせてだけでなく、利用者がどう過ごしたいのかという希望の把握を工夫することに期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来る範囲の準備・片付けを行っている。食べやすさを考慮した盛り付けがされている。		食事介助が必要な利用者への話しかけをもう少し多くする機会を持ち、より家庭的な雰囲気を醸し出す工夫に期待する。また、テレビの音量をもう少し低くする等会話のしやすい食事環境について工夫することに期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	健康状態を確認し、身体状況に応じて利用者の希望を取り入れた入浴方法に取り組んでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	片付け・畑仕事など、利用者が過去に経験した事で現在出来ることを自分で選んでいただいて、個々の役割として力を発揮できるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午後からの職員の買い物に同行する等、外出希望を取り入れている。また、グループホーム敷地前の庭を自由に散歩することが出来る。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	危険箇所以外は原則的に鍵をかけていない。利用者の精神状況を確認し、安全に過ごせるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中・夜間を想定し、火災訓練を行っている。日中の訓練には地域の方も参加している。		地震等自然災害時の近隣・地域の方との夜間の協力体制作りも必要である。話し合いや訓練を通して、より安全に暮らせるホーム作りに期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表や摂取カロリーの記載をしている。食事以外にも10時・15時などおやつの際にも水分摂取をしている。		職員が栄養のバランスを考えて、献立を立てているが、法人内の栄養士のアドバイスを頂くなどの工夫に期待したい。また、利用者ごとに、1日の水分摂取量を把握する取り組みを検討されることを期待する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン・ブラインドを使用し、採光を調節している。また窓を開けたりエアコンの操作などで換気・温度調整を行っている。共有スペースは安全を確保できるような収納が施され、歩行に支障のない十分なスペースが確保されている。		共有スペースに利用者の年代に馴染みのある物などを配置し、視覚に訴える空間作り・生活感のある環境づくりに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物が取り入れられ、本人が安心して暮らせるための環境づくりがされている。		

※  は、重点項目。